

# 今年1年の政局展望

読売新聞社政治部長  
小川 聡



- \* 裏金、派閥問題の政権への影響度
- \* 野党は岸田政権をどう追い込むのか
- \* 減税、賃上げで経済復調を期待する岸田政権
- \* 衆議院の3補欠選挙という関門
- \* 岸田首相と9月の総裁選について
- \* 麻生、茂木両氏の影響力排除という選択肢
- \* ポスト岸田は誰になるか
- \* 野党の支持率が低い理由を考える
- \* トランプ再選の可能性と米国社会の実相
- \* 能登震災対策費が予備費になった背景

山縣 それでは開会いたします。（拍手）

本日は読売新聞の政治部長小川聡さんに来ていただきました。昨年9月に朝日新聞の松田政治部長に来ていただきましたけれども、今回もたいへんお忙しい中、現役の政治部長さんにご登壇いただけることになりました。ありがとうございます。

もう45年前の話なんですけれども、『週刊東洋経済』に「今週の問題」という座談会のページがありまして、いつも二つのテーマを毎週扱っていたんです。その当時、経済倶楽部の事務局長をやっておられたミナガワシンサクさんという方が司会をされていて、入社したのが必ず担当になるんですけれども、私は小僧役として後ろに座ってお話をまとめるような役をやって

おりました。各社の政治部長さんが来ていらして、匿名の座談会ですから名前は公表されていなかったんですけれども、そのとき読売から来ていらした政治部長さんは渡邊恒雄さんでした。ですから、小川さんはそれからそうとう後の後輩として今日また東洋経済に来ていただいたということになると思います。

小川さんは早稲田大学を卒業された後、政治部に配属されまして、外交・安全保障の担当のデスクもなさり、それからアメリカに特派員として派遣されまして、2度アメリカに行かれたそうですけれども、2度目にアメリカ総局長をお務めになっています。2度のアメリカの滞在中で2回の選挙、ブッシュ大統領からオバマ、オバマからトランプのところを担当され、特にオ